

日本語の学習

——『ワンピース』に導かれて
国際コミュニケーション学部2年
烏寧奇

あるマンガに夢中になったことから、マンガの精神を深く理解するため、その書かれた言葉を勉強するのはクレージーでしょうか。

私が最初に日本語と接触したのは十年ほど前、中国でブームになっていた日本のマンガを見た時でした。その頃、『ワンピース』というマンガが少年達に注目されていました。皆が引きつけられたのは、そのストーリーラインで、私もその中の一人でした。しかし、その時見ていたのは、中国語に翻訳されたマンガでした。翻訳されたマンガを見る時によく出会う問題は時々ストーリーの前後の内容が上手く繋がらないことです。しかも、ストーリーのキーポイントなのに、意味が間違っているような言葉が使われることもよくあります。そんな言葉に出会う度、心の中で“日本語が分かっていたらよかった。”という小さい声が聞こえました。その時から、私は日本語に興味を持つようになったと思います。時が流れても、『ワンピース』に対する熱意は全く減りませんでした。読めば読むほど好きになり、中で演じているキャラクターを自分が体験しているみたいでした。主人公と共に笑い、共に泣いていました。この素晴らしいマンガをもっと深く理解したくて、私は日本語の勉強を始めました。日本語の勉強の行程にずっと付き添ってくれたのも『ワンピース』です。そしてとうとう、自分の人生を変えた『ワンピース』の中の宝物を追いかけて、日本にきました。日本では毎週の翻訳を待たなくても、直接テレビから見られました。これは私にとって画期的なことでした。『ワンピース』に導かれて来た日本ですが、最初は様々な悩みがあり

ました。日本語の勉強も大変でした。しかし、日本に来てから、日本語の力が大進歩したとも思います。言葉は環境とは密着しているため新しい言葉を学ぶためには、その環境で生活することが不可欠だということを教えられました。同じことを違う言葉で指すことができるけれども、その中の微妙な違いはその言葉を勉強しないと理解しにくいということも『ワンピース』に導かれて来た日本という環境に教えてもらいました。

今私は日本で日本語の勉強を本当に楽しんでいます。新しい言葉の習得は新しい世界を開いてくれることを実感しています。これが言葉の力というものでしょう。